検査研究演習　(Graduate Seminar of Laboratory Research Exercise)

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦、柴田 英治、千原 猛 星野 真理、森 啓至 、小菅 優子 山口 央輝、榎本 喜彦、大島 茂 澤田 浩秀、井上 孝、伊藤 康宏	1年次 前 期	必修	2	48	演習	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	検査研究演習では、学部で履修した知識、実習で修得した技術を基に、新たな臨床検査法につながる検査研究の遂行を目標に演習する。最近の研究・技術の進歩により多様化し複雑化した考え方や方法論を学修する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（柴田、高崎、千原、星野、 森、小菅、山口、榎本、大島、澤田、井上、伊藤、藤田）が講義を進めていく。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査学の高度な知識と研究手法を体得し、臨床検査の質向上に向けた研究を遂行することができる。」及び②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1. 臨床で求められる新たな臨床検査法を想定し、説明できる。 2. 各種の検査法の新知見をできるだけ多く認識し、説明できる。 3. 新たな検査法の応用方法を理解し、説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／シラバスに記載された内容を調べ、内容を概説できるようにしておくこと（各30分） 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／毎回の講義の復習を十分行うこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画			
	第 1 回	検査研究演習の概要	高崎昭彦
	第 2 回	産業衛生学の概論と健康問題の解決法1	柴田英治
	第 3 回	産業衛生学の概論と健康問題の解決法2	柴田英治
	第 4 回	疾患プロテオミクスの概要と実際	高崎昭彦
	第 5 回	炎症性サイトカイン測定の意味と対象疾患について1	森　啓至
	第 6 回	炎症性サイトカイン測定の意味と対象疾患について2	森　啓至
	第 7 回	がん悪液質の病態に関する検査法と栄養管理法1	千原　猛
	第 8 回	がん悪液質の病態に関する検査法と栄養管理法2	千原　猛
	第 9 回	免疫学の概要1	星野真理
	第 10 回	免疫学の概要2	星野真理
	第 11 回	プロバイオティクスと生活習慣病の予防1	井上　孝
	第 12 回	プロバイオティクスと生活習慣病の予防2	井上　孝
	第 13 回	侵襲的生理検査（カテーテル検査、内視鏡検査など）について	伊藤康宏
	第 14 回	画像検査などについて	伊藤康宏
	第 15 回	先端医療における遺伝子検査の役割と方法について1	山口央輝
	第 16 回	先端医療における遺伝子検査の役割と方法について2	山口央輝
	第 17 回	最新の形態学的検査法について1	澤田浩秀
	第 18 回	最新の形態学的検査法について2	澤田浩秀
	第 19 回	臨床検査と食理学、健康食品1	小菅優子
	第 20 回	臨床検査と食理学、健康食品2	小菅優子
	第 21 回	輸血医療の問題点と輸血検査の課題	星野真理
	第 22 回	血液学の最近の動向:がん関連血栓症を検査血液学から捉える	高崎昭彦
	第 23 回	寄生虫のゲノムDNAによる同定法や新規診断法	大島　茂
	第 24 回	電気生理学的手法による中枢および末梢神経系検査法の解説	榎本喜彦

評価方法 評価基準	レポートで評価する（100%）		
教科書	特に定めない。	参考書等	各担当教員から資料を配布する。
学生への メッセージ	臨床検査技師として必要な知識を深め、臨床現場で役立てること及び、研究課題のヒントとなる可能性もあり、特別研究に役立てていただきたい。		